

『学校教育全体を通してのピア・サポート』

藤枝市立青島中学校

| 月別 | ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事 | プログラム | 職員研修 |
|-----|---|---|-------------------|
| 4月 | 学級開き 1年生を迎える会／1学期道徳開き 縦割り活動（団の出会い） 授業について語る会 | ・人間関係づくりプログラム ・エンカウンター ・めざす授業像 | 本校のピア・サポートについての説明 |
| 5月 | 1年生合唱指導 歌おう集会 あいさつ運動 | ・3年生による1年生への合唱指導 | 全体打ち合わせ （共通理解） |
| 6月 | 結団式 縦割り活動（団で役割を考える学活） | ・団においてどのような役割・協力ができるかを考える学活 （人間関係づくりプログラム） | |
| 7月 | 縦割り活動（レクリエーション） 立会演説・生徒会選挙 小学校へのあいさつ活動 | ・団で協力する・創り上げるレクリエーション （人間関係づくりプログラム） ・選挙に向けた応援活動 | |
| 8月 | | | |
| 9月 | 合唱コンクール 縦割り活動（体育大会に向けて） 2学期道徳開き 小学校へのあいさつ運動 | ・合唱コンクール振り返り ・団が大事にしていきたいこと につながるレクリエーション （人間関係づくりプログラム） | |
| 10月 | 体育大会 授業について考える | ・体育大会振り返り | |
| 11月 | 生徒大会 { ・よりよい青中をめざして ・各専門委員より提案 | | |
| 12月 | 学校保健委員会 交歓合唱 | | 教育課程編成 活動の振り返り |
| 1月 | 交歓合唱 3学期道徳開き | | 実践報告 |
| 2月 | 交歓合唱・小学校へのあいさつ運動 3年生への応援メッセージ | | 次年度計画 |
| 3月 | 解団式 3年生を送る会 | | |

1 本校のピア・サポート

ピア・サポートを推進するために何か特別な活動を行わなければならないという意識をもつのではなく、日常的なピア・サポートを取り上げ、意識できる環境をつくっていきたいと考えている。そのため、縦割り集団を積極的に活用して、様々な活動に縦割り集団で参加する機会を設けた。また、授業や日常生活でも、仲間との支え合いを通して、一人で取り組むと難しいことでも仲間と取り組むことで、達成感を得たり、仲間の良さを認識したりできる場面を意図的に設定している。特に道德の授業では、自分の感じたことを表現できなかった生徒も仲間の感じたことを聞くことによって、考え方や価値観の多様性を感じさせたい。

2 本年度の取り組み

(1) 授業において〈提言4〉

本校では、普段の授業でもピア・サポートを位置付けている。各教科で、班活動、ペア活動、自由交流など課題に応じて形態を変え、意見交換や教え合う場面を意図的に多く設けた。このような場面を設けることにより、教師ではなく同じ立場の生徒から教えてもらい、意見を交流することで、わからないことをすぐに聞けたり、自分の考えを膨らませたりと主体的に楽しく学ぶ姿が見られた。

また、各学期の道德開きにおいては、「よりよい学校生活／集団生活の充実」にねらいを置き、コミュニケーションを取ることに、協力することの大切さを、学年により活動は異なるが、学習課題を通して感じる事ができていた。

(2) 特徴的な活動

①縦割り活動〈提言4・6〉

1年を通して様々な活動が行えるよう、団を4月に決めた。まず、各学級での学活で団においてどのような役割・協力ができるかを各学年の立場で考えた。そして、縦割りレクリエーションにおいては、「団で協力する・創り上げるレクリエーション」を目的とし、各団の3年生が企画し、1、2年生をリードした。各学年、学活で考えたそれぞれの立場での関わり方を意識して取り組んでいた。体育大会に向けての縦割り活動においては、それぞれの団が大切にしたいことに沿った活動を考え、3年生はリーダーとして、1、2年生はフォロアーとして自主的に取り組む姿が見られた。

②歌おう集会・交歓合唱 〈提言4・7〉

今年度の合唱活動は年間を通して実施できた。1学期に歌おう集会があり、約800人の生徒が体育館に集まり、合唱練習を行った。上級生と一緒に歌うことで、合唱練習への意識が変わった1、2年生も多く見られた。

後期歌おう専門委員の取り組みとして交歓合唱を行った。帰りの会の合唱の時間に、縦割り集団で互いの合唱を披露しあったり、一緒に練習したり、上級生が下級生に指導をしたりという活動を行った。上級生の合唱を聞くことで、憧れの気持ちをもつ生徒や、自分の学級の合唱活動をさらに良いものにしていきたいと考える生徒の様子が見られた。

3 本年度の成果と来年度に向けて

本年度も日常的なピア・サポートを大切にしたい取り組みを継続してきた。その結果、縦割り活動を通して、学年を越えた協力や思いやりの関わりが多く見られた。例えば、上級生が下級生に声をかけて活動をサポートしたり、困っている友達に自然に手を差し伸べたりする姿が見られた。また、こうした関わりは特別な活動に限らず、日常の授業においても多く見受けられた。一方で、友達と関わりたい気持ちはあるものの、「どのように関わればよいかわからない」と戸惑いを感じている生徒もいる。年度当初にピア・サポートとはどのようなものかを共有する時間を設けるとともに、ソーシャルスキルトレーニングを教育活動の中に計画的に取り入れるなど、生徒一人一人が安心して人と関わる力を育てる工夫をしていきたい。